

胃粘膜DNAメチル化レベルを用いた内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)施行後の異時性多発胃がん発生予測に関する研究

1. 研究の対象

この研究の対象は、国立がん研究センター中央病院および共同研究施設において、胃がんの内視鏡治療を受けられた方のうち、40歳以上80歳以下の方です。

2. 研究目的・方法

胃がんの内視鏡治療を受けた後、経過観察中に再び別の胃がんができる方がいます。一度の治療で治ってしまう人と再び別のがんができる人がいる理由として、それまでの生活の中で胃の細胞に生じた、それだけではがん化には結びつかないような「遺伝子のひっかき傷」の蓄積の程度が異なることが示唆されています。この研究では、その「ひっかき傷」の蓄積の程度を調べることによって、その人に将来胃がんができやすいか否かを予測できるかどうかを解明します。この研究の実施期間は、研究許可日（2008年4月17日）から2026年3月31日までです。この研究はシスメックス株式会社との共同研究として行います。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

生検で採取した胃の正常組織からDNAを抽出し、遺伝子のひっかき傷の蓄積の程度を様々な方法で解析します。また、血液からヘリコバクターピロリ菌に対する抗体価とペプシノゲンについて検査し、ヘリコバクターピロリ菌の感染状態、胃粘膜の萎縮の程度について調べます。将来胃がん発生予測に有用なマーカーが判明した場合、その値も調べる可能性があります。この情報を、病理診断や治療内容などの臨床情報と詳細に見比べて、新しい診断法や治療法の開発に役に立つかどうかを評価します。

4. 外部への試料・情報の提供

本研究において収集された試料・情報は、国民の健康増進を目指すさまざまな医学研究において利用価値の高い貴重な研究資源です。そのため、研究終了後も引き続き、検体保管施設・研究資料保管施設で保管されます。本研究において収集・保管された試料・情報は、国立がん研究センターおよび共同研究施設の研究倫理審査委員会の承認を受けた他の医学研究に利用する可能性があります。

共同研究機関や海外に試料を提供する場合は、郵送等の手段を利用します。データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

研究成果は、論文及び学会発表により公表します。

5. 研究組織

研究代表者 :

国立がん研究センター中央病院・内視鏡科 阿部 清一郎

研究事務局:

国立がん研究センター中央病院・内視鏡科 阿部 清一郎

国立がん研究センター研究所・分子薬理研究分野 山田 晴美

共同研究者 :

星薬科大学 学長 牛島 俊和

東京大学医学部附属病院 山道 信毅

和歌山県立医科大学 前北 隆雄

シスメックス株式会社 中央研究所 吉田 智一

検体保管施設 :

国立がん研究センター研究所・分子薬理研究分野 山田 晴美

研究資料保管施設 :

国立がん研究センター研究所・分子薬理研究分野 山田 晴美

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先 :

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL : 03-3542-2511 (内線 7383) / FAX : 03-3542-3815

国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院・内視鏡科 医長

阿部 清一郎

国立がん研究センター中央病院の研究責任者 : 阿部 清一郎

国立がん研究センター中央病院・内視鏡科 医長

研究代表者 : 阿部 清一郎

国立がん研究センター中央病院・内視鏡科 医長

2025年3月27日

公開文書第2版 2022年10月14日作成

当院のお問い合わせ先

〒641-0012 和歌山県和歌山市紀三井寺 811-1

和歌山県立医科大学附属病院 消化器内科

准教授 前北隆雄

電話：073-447-2300（代表）